

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<http://www.araikinuyo.jp>

医師の判断を優先させる神奈川方式が特色 ウイルスとインフル流行期の発熱患者対策

毎年、12月から2月ごろまで季節性インフルエンザが流行していますが、今シーズンはこれに加え新型コロナウイルスが蔓延し、この対策に迫られています。神奈川県ではコロナウイルス対策を「重点病院を決めるなど症状に合わせて入院・治療先を決める神奈川方式」の下で進めてきましたが、2つの流行期対策でも同方式で臨むことにしました。発熱症状者の診療・検査パターンに臨床判断優先（医師が判断し、必要に応じて検査する）を加えたことが特色です。これには発熱などの症状がある人が確実に診療が受けられるための機関が必要で、県は新たに発熱等診療予約センターを開設します。診療予約の拠点となる施設です。かかりつけ医での受診が出来なかった場合、同予約センターに電話すると同センターが診療可能な医療機関の診療予約を行うもので、11月2日に開設（☎0570-048914）されます。無料通信アプリ「LINE」を使ったアプリを立ち上げることにしています

新：発熱等診療予約センター受付窓口



よやくじゅしん
0570 -048914 9:00~21:00
※一部のIP電話など上記番号へつながらない電話はこちらへ
045-285-1015

11月2日午前9時：電話受付開始

11月9日：LINE 受付開始

コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、県と県医師会、県病院協会は10月8日、発熱患者診療体制構築（神奈川モデル）に向けた共同宣言を行いました。県が情報基盤の提供や受診調整の支援を行い、県医師会は発熱診療機関の確保、県病院協会は救急診療と入院病床の確保を行うというもので、「発熱難民、を作らないことに狙いがあります。このため神奈川では発熱症状の患者が確実に診察を受けられとともに、診察に当たった医師がインフルエンザなのか、コロナウイルスの検査が必要なのかをまず判断して検査・診療の振り分けを行うという、医師の判断を優先させる方式を加えました。これに沿って、その後の検査・診療の仕方をきめ細かに行っていきます。このため県では発熱等診療予約センターを設け、発熱患者が診療予約を確実に取れる体制を作りました。同センターにはオペレーターを配置し、20~170回線スタート。診察予約は全日午前9時から午後9時まで受け付けます。予算は2020年度末までに約10億円を見込み、国の緊急包括支援交付金を充てることにしているといひます。



コレが言いたい!

新型コロナとインフルエンザの同時流行に備え、発熱難民を作らないために県が「発熱等診療予約センター」を設ける事となりました。窓口を一元化する事で医療機関への負担を減らす事にもなりますが、電話が繋がりにくい状態にならないかが危惧されます。以前設置された「帰国者・接触者相談センター」も多数の問い合わせが寄せられ、繋がりにくい状態が続いています。「発熱等診療予約センター」は、インフルエンザの流行時期に合わせて20~170回線、ピーク時には最大で230回線を配置する事としていますが、状況に応じて柔軟な対応が求められます。

今月のひと言

11月は児童虐待防止推進月間です。


身の回りで「虐待かも」と思ったら、迷わず、**児童相談所 全国共通ダイヤル ☎189**

1日1回しかかけるとおぼろげに
通報期間に2週間あります。
通報者・内容に繋がる場合は
守られます。(通報料無料)

かながわ子ども家庭110番相談LINE

子育ての不安、親子関係や家族の悩みなど、子どもにかかわる相談を無料で受け付けます。保護者の方はもちろん、子どもの皆さんからの相談もお待ちしています。

「児童虐待防止」をテーマに、
友だち登録してね!



磯子 あれ? これ?

岡村天満宮 (磯子区岡村)

岡村天満宮の草創についての資料は残っていませんが、言い伝えによると鎌倉時代の建久年間(1190～1199)ではないかと言われています。

あるとき鎌倉に居た源頼朝の家臣が岡村に移り住み、天満宮を建てて信仰していた天神様をこの地にお祀りしたいと考えました。そして京都の北野天満宮の分霊かんじょうを勧請してきました。天満宮は、菅原道真公を祀った学問の神様として知られています。

天神参りが盛んだった戦前、特に初天神(1月25日)では、堀割川に掛かる天神橋(南区と磯子区の境)から天満宮までの天神道路には多くの参拝者と茶店や土産物店、露天など300軒ほどが出て賑わいました。

昭和12(1973)年に、鎌倉の鶴岡八幡宮に匹敵する大きな新神殿造営遷宮計画がありましたが、世界的な不況や、満州事変、支那事変、第二次世界大戦などが続き計画は消えてしまいました。

神社の境内入口には、岡村出身のアーティスト "ゆず" がデビュー前に伊勢佐木町で路上ライブをしていた頃の壁画パネルが飾られています。

参考: 磯子の史話、宮司のはなし

活動報告

9月23日(水)、下記について一般質問を行いました。

1. 新しい生活様式におけるコミュニティ再生・活性化の取組について
2. テイクアウトの増加によるプラごみの削減について
3. 中小企業・小規模企業の事業継続計画(BCP)策定支援について
4. 新しい生活様式における障がい者への支援について
5. カスタマーハラスメントに係る事業主支援について
6. かながわ性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター「かならいん」の周知について
7. 生命(いのち)の安全教育の推進について
8. 若い世代の予期しない妊娠への対応について



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/ (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 議会運営委員会委員
- 予算委員会委員長
- かながわ自民党女性議員局長

